



## 『感謝』の言葉で『感動』の連鎖

校長 海 頭 巖

夏の甲子園での高校野球は、ことのほか面白く、感動させられました。そう思ったのは私だけでしょうか。(観ていなかった人には誠に申し訳ございません。)何が面白かったのかは、人によって違います。『高校野球100年の記念大会』、『王貞治氏の始球式』、『早実の清宮君や関東一のオコエ君の活躍』、『多かった逆転そしてまた逆転の試合』、『一日で3試合の延長戦』など、話題には事欠かない大会でした。私はテレビで観戦していても、試合がどう展開するのか、どっちのチームが勝つのか予想ができず、最後の最後まであきらめず死力を尽くし合う選手たちのひた向きさ・素晴らしさに、思わず身を乗り出し、食い入るようでした。

京都の鳥羽高校梅谷主将の選手宣誓の内容の影響もあってか、この大会のテーマは『感謝』でした。勝った負けたにかかわらず、選手たちは口々に、「チームメート皆のお陰です。」「野球をさせてくれ、支えてくれた両親のお陰です。」「おいしい食事を提供してくれた旅館の人たちのお陰です。」、中には、「生まれ変わっても、この先輩たちとまた野球をしたい(早実:清宮君)」など、仲間・親・周囲の人たちに及ぶまで、かわり・支えてくれた人々への『感謝』の言葉を発していた大会だったと思います。

ひょっとしたら、選手のプレー1つ1つに、その『感謝』の気持ちが乗り移り、すばらしい試合展開となって、観ている者に感動を与えてくれたのかも知れません。

私の好きな作家の『ひすいこたろう』さんの本に、次のようなことが書いてありました。【『感謝』という言葉には『謝』という字が使われています。『謝罪』『謝辞』といった言葉にも『謝』という文字が使われています。『謝』とは何でしょう。よく字を見てください。『謝』とは『言葉で射る』と書きます。言葉にださなきゃあ感謝じゃあないんです。「ありがとう」「ごめんなさい」。その気持ちは言葉に出さなきゃあ、相手には伝わらないんです。言葉にすればあなたの気持ちは一秒で伝わります。「ありがとう」・・・の気持ちが・・・。】

選手たちが「ありがとう」という言葉を口々に発すれば、その言葉を聞いた人たちは「(心で)感じ」、そして「(心や体が)動く」ものです。「頑張ってくれ! 私たちもしっかり応援するよ。そして、ありがとう。」と。プレーする人も、それを応援する人も、そしてテレビで観戦する人も、それぞれが、『感謝』の言葉を紡ぎ合っていることに気づいたのです。

長い夏休みが終わり、子どもたちがまた学校へ登校してきます。お家の方は多少、開放感を味わわれることと思います。夏休み中、子どもたちは大きな怪我や事故にも遭わず、また元気に登校してくれることに「ありがとう」です。

『感謝』の言葉で『感動』の連鎖。そんな二学期にしていきたいと思います。